

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBIグローバル・ラップファンド(積極型) 愛称:My-ラップ(積極型)」は、2020年12月15日に第6期の決算を行いました。

当ファンドは、主として上場投資信託証券(ETF)及び投資信託証券への投資を通じて、世界各国のさまざまな資産への分散投資により、投資信託財産の収益の獲得を図ることをめざして運用を行いました。ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

### 第6期末(2020年12月15日)

基準価額	11,752円
純資産総額	2,701百万円
第6期	
騰落率	5.7%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

# SBIグローバル・ラップファンド(積極型) 愛称:My-ラップ(積極型)

追加型投信/内外/資産複合

## 交付運用報告書

第6期(決算日2020年12月15日)

作成対象期間(2019年12月17日~2020年12月15日)

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間:営業日の9:00~17:00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiasset.com/jp/>

## 運用経過

## 基準価額等の推移

(2019年12月17日～2020年12月15日)



期首：11,118円

期末：11,752円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：5.7%

(注1) 当ファンドでは、ベンチマークを採用しておりません。また、適当な参考指数もないため当ファンドのみ表記しております。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

## 上昇要因

新型コロナウイルスの感染拡大による景気の低迷を受け、主要各国の中央銀行が緊急的な金融緩和を行い、また各国政府が財政による大胆な景気支援策を打ち出しました。このような環境を背景に世界的に株式市場が上昇したことが基準価額の上昇要因となりました(2020年4月以降)。

景気の低迷と主要国の利下げを背景に、世界的に債券が買われ利回りが低下(価格が上昇)したことが基準価額の上昇要因となりました。

分散投資が得られることから3月より組入を行ったコモディティ(金)が、世界的な金融緩和政策を背景に堅調に推移したことから基準価額の上昇要因となりました。

## 下落要因

新型コロナウイルスの感染拡大が報じられた直後に世界的に株式市場が急落したことが、基準価額の下落要因となりました(2020年3月)

期の後半に、米国の低金利が長期化するとの見方から円高・ドル安が進んだことが、基準価額の下落要因となりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2019年12月17日~2020年12月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	146 円	1.371 %	(a)信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 61)	(0.576)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 81)	(0.768)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 3)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	19	0.180	(b)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料です。
( 投 資 信 託 証 券 )	( 19)	(0.180)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c)有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金です。
( 投 資 信 託 証 券 )	( 0)	(0.001)	
(d) そ の 他 費 用	6	0.060	(d)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 2)	(0.016)	保管費用は、海外における保管銀行に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 1)	(0.012)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 費 用 )	( 3)	(0.031)	開示資料等の作成・印刷費用等
( そ の 他 )	( 0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	171	1.612	
期中の平均基準価額は10,612円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

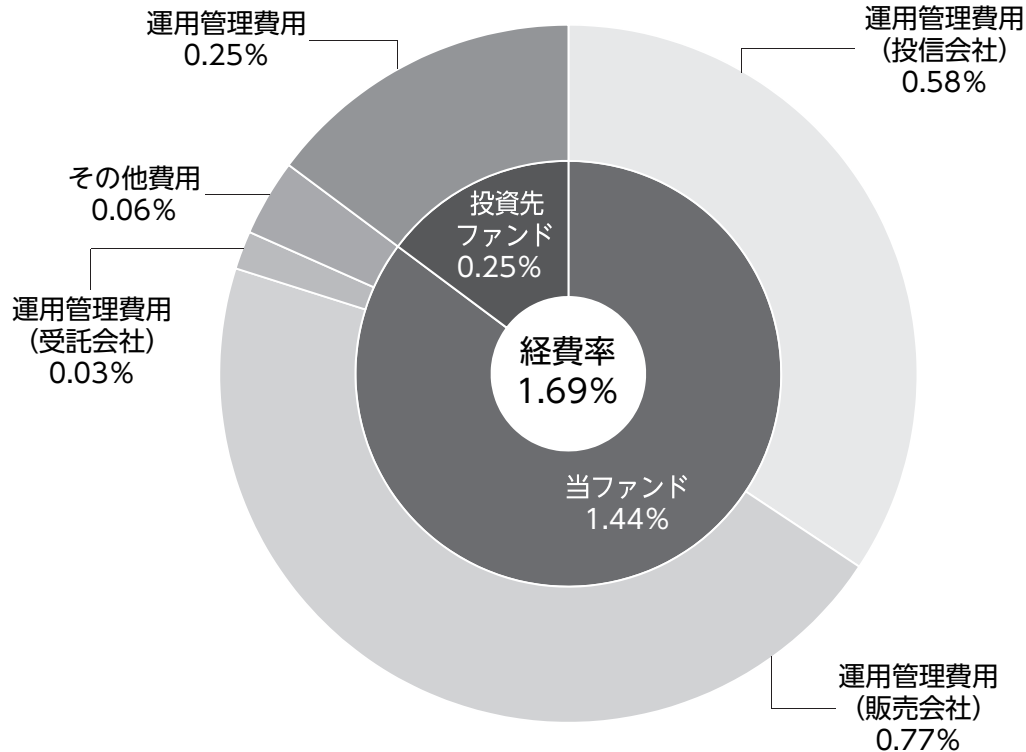
(注5) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

## (参考情報)

## ○経費率(投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く)

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した経費率(年率)は1.69%です。



(単位: %)

経費率 (①+②)	1.69
①当ファンドの費用の比率	1.44
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.25

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

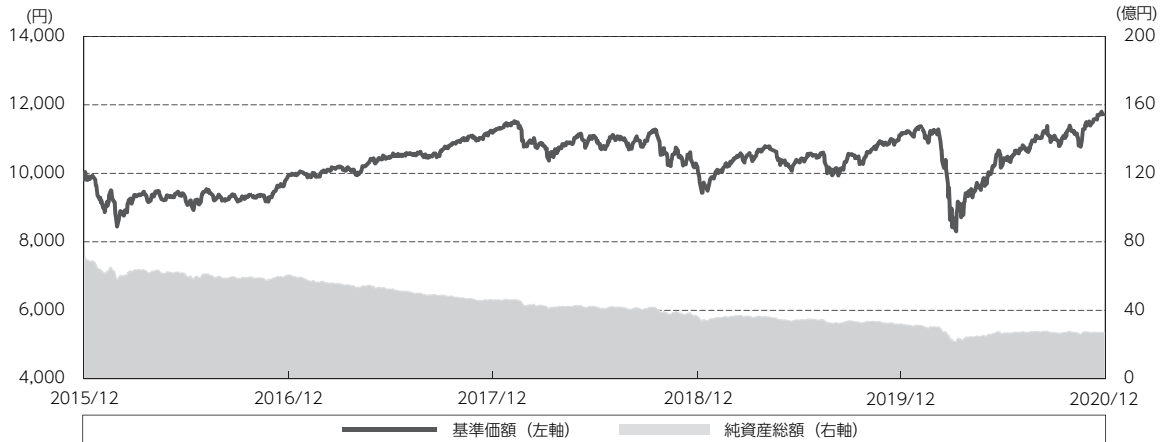
(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2015年12月15日～2020年12月15日)



(注) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

	2015年12月15日 決算日	2016年12月15日 決算日	2017年12月15日 決算日	2018年12月17日 決算日	2019年12月16日 決算日	2020年12月15日 決算日
基準価額 (円)	9,771	9,941	11,188	10,172	11,118	11,752
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	1.7	12.5	△ 9.1	9.3	5.7
純資産総額 (百万円)	6,899	6,066	4,587	3,658	3,201	2,701

(注1) 当ファンドにはベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、ベンチマーク、参考指数を記載していません。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

**投資環境**

(2019年12月17日~2020年12月15日)

**【株式型資産】  
(先進国)**

当期初から2020年2月中旬までの期間、先進国株式市場では、米国とイランの軍事的緊張や香港問題などの悪材料はあったものの、堅調な米国経済指標、米中通商交渉への期待、ユーロ圏の一部経済指標の改善などが好感され、株価は上昇しました。

しかし2月中旬から3月にかけては、新型コロナウイルスの感染が中国のみならず米国や欧州など世界に広がるとの見方から世界の株式市場は急落しました。また石油輸出国機構(OPEC)とロシアとの間で原油の減産の合意に至らなかったことも株価の下落に拍車をかけました。

3月には、米国連邦制度理事会(FRB)がゼロ金利政策に踏み切ったことや量的緩和の拡大を実施したこと、他の主要中央銀行が金融緩和策や財政刺激策を強化したことなどから、株価の下落に歯止めがかかり、株式市場は急速に上昇に転じました。その後は、OPECとロシアなどの非OPEC加入国の中で原油の減産が合意されたこと、米国が中小企業の支援策を打ち出したこと、米国や欧州で経済活動が再開するとの期待、世界の製薬会社や研究機関が新型コロナウイルスのワクチンの開発を本格化させたことなどが好材料となり、8月末まで、株価の上昇基調が続きました。

9月から10月の間は、11月に行われる米国大統領選挙の不透明感、株価の高値に対する警戒感などから、株式市場はやや広いレンジでもみ合う展開となりましたが、11月以降は、米大統領選挙が終了し不透明感が払拭したこと、開発中の新型コロナウイルスのワクチンが高い効果を持つと公表されたこと、これに伴い米国や欧州を中心に景気回復の期待が高まったことから、株式市場は上昇しました。

**(新興国)**

当期初から2020年1月中旬にかけて、堅調な米国経済指標、米中貿易問題の改善への期待、米国とイランの間での軍事的緊張の後退などを材料として、株価は上昇しました。

その後は、中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感から、リスク資産を回避する動きが広がり、1年半ばには新興国株式は下落に転じました。その後も新型コロナウイルスの感染が欧州や米国にも広がるとの懸念から、世界的にリスクを回避する動きがひろがり、3月下旬に向けて新興国株式市場は急落しました。

3月下旬以降は、中国が新型コロナウイルスを封じ込め中国の経済活動が正常化するとの期待、石油輸出国機構(OPEC)とロシアなどの非OPEC加盟国間での原油減産の合意、欧米の経済活動再開の動き、投資家のリスク回避姿勢の後退などから、8月にかけて新興国株式市場は上昇基調となりました。

9月から10月の期間は、株価の高値に対する警戒感やリスク資産を敬遠する動きから、株式が下押す場面も見られましたが、その後は、当期末に向け、米大統領選挙が終了し政治的不透明感が払拭したこと、欧米で開発中の新型コロナウイルスのワクチンが高い効果を持つと公表されたこと、これに伴い米国や欧州を中心に世界的に景気が回復に向かうとの期待感が広がったことなどから、株式市場は上昇しました。投資家がリスク選好姿勢を強めたことも、新興国株式の支援材料となりました。

**(コモディティ(金))**

組入を開始した3月以降、世界の債券市場では利回りが低下しその後も安定的に推移したため、金利の付かない金の相対的な魅力が高まり、金価格は8月上旬まで上昇しました。その後は、外国為替市場におけるドル高等の進行を受けて金価格は下落したものの比較的安定的に推移いたしました。

**【債券型資産】****(先進国)**

当期の先進国債券市場は、概ね好調に推移し、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。

当期初から2020年2月の半ばにかけて、主要先進国の債券市場では、米国とイランの対立、米国の低インフレ、ドイツ経済の低成長などを背景に、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。

2月の下旬から3月の中旬にかけては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が懸念されたこと、米国が緊急利下げを行ったこと、原油価格が急落したことなどから、債券利回りは急低下(価格は急上昇)しました。その後は、欧州や日本では財政の拡大や債券需給への懸念などから一時的に債券価格が下落(利回りは上昇)する場面もありましたが、7月にかけて債券市場は概ね高値圏(利回りは低位)での推移となりました。

8月以降は、米国では債券需給の悪化懸念、株式などリスク資産が上昇する中で債券の相対的な魅力が後退したこと、新型コロナウイルスのワクチンへの期待、景気回復観測などから、債券利回りは緩やかな上昇(債券価格は緩やかな低下)基調となりました。一方で、この時期、欧州では新型コロナウイルスの感染拡大と経済に与える影響が懸念されたことや英国とEUの通商交渉の先行き不透明感などから債券利回りは低位での推移(価格は堅調な推移)が続きました。また日本では需給悪化の懸念や景気の先行き不透明感、新政権の政策などの材料が混在する中で小動きとなりました。

**(新興国)**

当期の新興国債券市場は、堅調な推移となりました。

期初から2020年3月上旬までは米国などの金利動向を見ながら、方向感に乏しい展開となりました。3月中旬から下旬にかけては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が懸念されたことから、市場では株式や新興国資産などのリスク資産を売る動きが活発化し、株式市場や新興国債券市場は急落しました。

このようにリスク資産が急落する中で米国が大幅な緊急利下げを行い、またブラジル、ロシア、インドなど多くの新興国が積極的に利下げを実施したことなどを背景に、4月には新興国債券市場は上昇に転じました。その後も、世界の各地域での新型コロナウイルスの感染状況が市場の重しとなりながらも、世界的に中央銀行が金融緩和政策を継続したことやワクチンの開発期待などから、投資家の間でリスク資産を選好する動きが広がり、新興国債券市場への投資資金の流入がみられました。また米国の低金利政策が長期化するとの見方から、投資家が相対的に高い利回りを求めたこと、新興国通貨が上昇したことも新興国債券市場にとりプラスの要因となりました。

11月以降は投資家の間で新興国資産を選好する動きが加速し、新興国債券は一段となりました。

**【為替】**

当期を通して、米ドル/円相場は、円高米ドル安となりました。

当期初は1ドル=109円近辺でドル円の取引が始まり、2020年2月半ばまでは、堅調な米国経済を背景に、米ドル高が進み一時ドルは110円台まで上昇しました。しかし、その後市場の焦点が新型コロナウイルスの感染拡大問題に当たると、米国金利の急低下や原油価格の下落、急激なリスク資産回避の動き、世界的な米ドルへの資金需要など、様々な要因が交錯し、2月後半から3月にかけて米ドル/円相場は1ドル=101円台~112円台の広いレンジで極めて荒い値動きを見せました。

4月以降は、米国の景気回復期待や市場参加者のリスクを選好する動き、新型ウイルスのワクチンの完成が近いとのニュースなどから一時的に米ドル高となる場面もあったものの、米国の金融緩和が長期化すると観測、景気支援策に関する米国与野党協議の難航、米国トランプ大統領の新型ウイルスへの感染、11月の米国大統領選挙の不透明感と投票集計の混乱の懸念、米国での新型ウイルスの感染拡大の加速などを背景として、期末にかけて円高ドル安の基調となりました。



**当ファンドのポートフォリオ**

(2019年12月17日～2020年12月15日)

モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言による基本配分比率に基づき、国内及び海外の上場投資信託（ETF）及び投資信託証券への投資を行いました。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2019年12月17日～2020年12月15日)

当ファンドにはベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、ベンチマーク、参考指数を特定しておりません。

**分配金**

(2019年12月17日～2020年12月15日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**○分配原資の内訳**

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第6期
	2019年12月17日～ 2020年12月15日
当期分配金	－
(対基準価額比率)	－%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	1,779

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金（税込み）と一致しない場合があります。

**今後の運用方針**

国内外の上場投資信託（ETF）及び投資信託証券への投資を通じて、株式型資産（株式、リート等）への基本配分を70%、債券型資産（債券、ヘッジファンド等）への基本配分を30%とし、国際分散投資を行います。金利上昇局面に弱い債券型資産のパフォーマンスを補完するために、債券代替の資産クラスとしてヘッジファンドをポートフォリオに組入れることにより、信託財産の安定的な収益獲得をめざします。また、一部の資産クラスに関しては、為替ヘッジを行う場合があります。

引き続き、モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言や金融市場の動向等を勘案し、投資対象ファンドの入れ替えや基本配分比率の変更を定期的に行っていく予定です。

## お知らせ

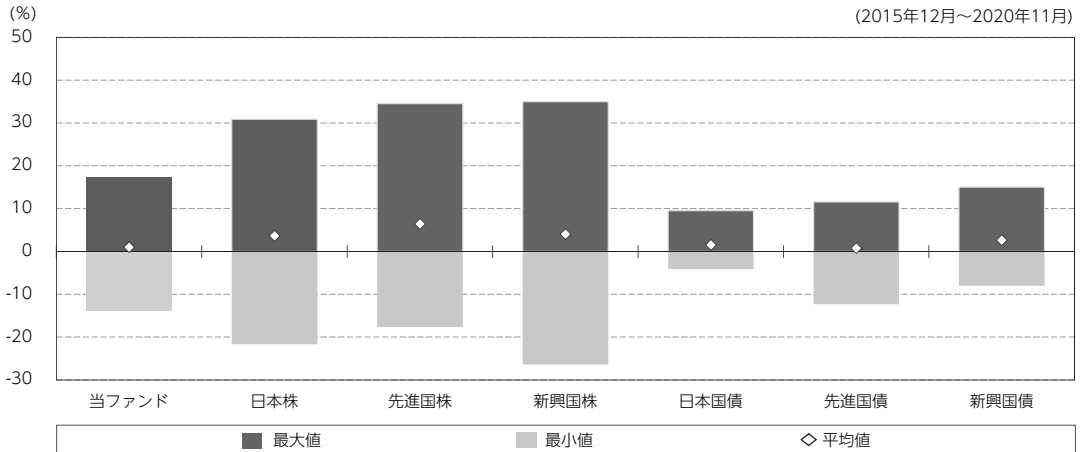
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限（設定日：2014年12月11日（木））
運用方針	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	上場投資信託証券（ETF）及び投資信託証券を主要投資対象とします。
当ファンドの運用方法	<p>投資対象ファンドへの投資を通じて、世界各国の株式、債券、貸付債権（バンクローン）、ヘッジファンド、コモディティ、不動産投資信託証券（リート）等、さまざまな資産への分散投資を行うことで収益の獲得をめざします。</p> <p>スマートベータ指数*に連動するETFや、国内及び海外の中小型株式へ投資を行うことにより、追加的な収益の獲得を追求します。</p> <p>※スマートベータ指数とは、時価総額に応じて銘柄を組入れる従来型の株価指数ではなく、財務指標（売上高、営業キャッシュフロー、配当金など）や株価の変動率など銘柄の特定の要素に基づいて構成された指数のことをいいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運用期間中に亘り上記のすべての資産に投資するとは限りません。</li> <li>・投資対象ファンドは、定性、定量評価等により適宜見直す場合があります。したがって、当初組入れていた投資対象ファンドでも、運用期間中に投資対象から外したり、新たな投資対象ファンドを選定し投資対象とする場合があります。</li> </ul> <p>投資対象ファンドの選定及び投資比率の決定にあたっては、モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社からの助言により運用されます。</p>
組入制限	<p>投資信託証券への投資割合には制限を設けません。</p> <p>外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p> <p>株式への直接投資は行いません。</p>
分配方針	<p>毎決算時（毎年12月15日。休業日の場合は翌営業日とします。）に原則として以下の方針により分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。</p>

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	17.3	30.9	34.5	35.0	9.5	11.6	15.0
最小値	△13.9	△21.7	△17.6	△26.4	△4.1	△12.3	△8.0
平均値	1.0	3.7	6.4	4.0	1.5	0.8	2.7

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2015年12月から2020年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

## 《代表的な各資産クラスの指数》

- 日本株…Morningstar 日本株式指数
- 先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)
- 新興国株…Morningstar 新興国株式指数
- 日本国債…Morningstar 日本国債指数
- 先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)
- 新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2020年12月15日現在)

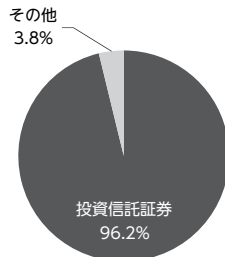
## ○組入上位ファンド

	銘柄名	第6期末
		%
1	シュワブ・米国大型株グロース・ETF	23.7
2	ゴールドマン・サックス・アクティブベータ・国際株式・ETF	15.3
3	iシェアーズ・コア TOPIX ETF	9.8
4	ピムコ・パミュダ・インカムファンドA クラスX(JPY)	9.2
5	SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリパイブ(適格機関投資家専用)	7.4
6	アパディーン・スタンダード・フィジカル・ゴールドシェアーズ・ETF	6.3
7	バンガード・スモールキャップ・グロースETF	5.4
8	iシェアーズ・MSCI欧州小型株・ETF	5.2
9	SPDR ポートフォリオ・新興国株式 ETF	5.0
10	NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI総合連動型上場投信	4.0
11	バンガード・トータル・インターナショナル債券 ETF(米ドルヘッジあり)	2.7
12	バンガード・米ドル建て新興国政府債券ETF	2.3
	組入銘柄数	12銘柄

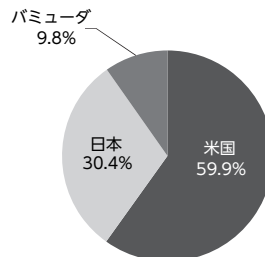
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

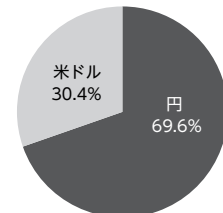
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分は発行国を表示しております。

(注3) 国別・通貨別配分は組入投資信託証券の評価額に対する比率です。

## 純資産等

項目	第6期末
	2020年12月15日
純資産総額	2,701,779,587円
受益権総口数	2,298,960,633口
1万口当たり基準価額	11,752円

(注) 期中における追加設定元本額は125,147,537円、同解約元本額は706,185,539円です。

※次頁以降に、組入上位3銘柄の概要について記載しております。

## 組入上位ファンドの概要

## シュワブ・米国大型株グロス・ETF

【基準価額の推移】

(2019年8月～2020年8月)



【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載していません。

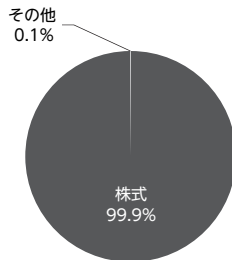
【組入上位10銘柄】

(2020年8月末現在)

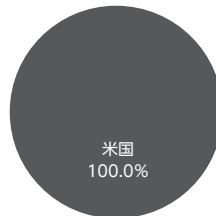
	銘柄名	比率
		%
1	Apple, Inc.	11.1
2	Microsoft Corp.	9.0
3	Amazon.com, Inc.	7.6
4	Facebook, Inc., Class A	3.7
5	Alphabet, Inc., Class A	2.6
6	Alphabet, Inc., Class C	2.5
7	Berkshire Hathaway, Inc., Class B	2.2
8	Tesla, Inc.	1.9
9	Visa, Inc., Class A	1.9
10	NVIDIA Corp.	1.7
組入銘柄数		348 銘柄

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

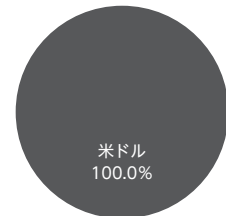
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、2020年8月末現在のものです。

(注2) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

(注3) 国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びCharles Schwab Investment Management, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

## ゴールドマン・サックス・アクティブベータ・国際株式・ETF

【基準価額の推移】

(2019年8月～2020年8月)



【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

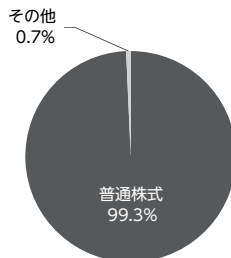
【組入上位10銘柄】

(2020年8月末現在)

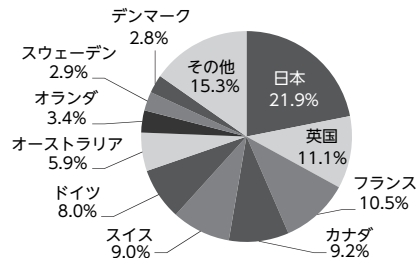
	銘柄名	比率 %
1	Nestle SA	2.0
2	Roche Holding AG	1.5
3	Novartis AG	1.0
4	SAP SE	0.8
5	LVMH Moet Hennessy Louis Vuitton SE	0.7
6	Novo Nordisk A/S, Class B	0.7
7	AstraZeneca PLC	0.7
8	L' Oreal SA	0.7
9	Sanofi	0.6
10	Royal Bank of Canada	0.6
	組入銘柄数	781 銘柄

(注) 比率は、実質組入債券評価額に対する割合です。

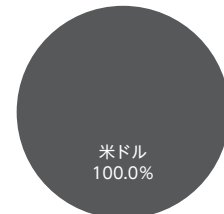
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、2020年8月末現在のものです。

(注2) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

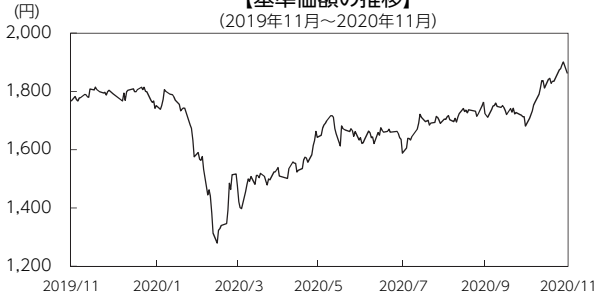
(注3) 国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びGoldman Sachs Asset Management, L.P.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

## iシェアーズ・コア TOPIX ETF

## 【基準価額の推移】

(2019年11月～2020年11月)



## 【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

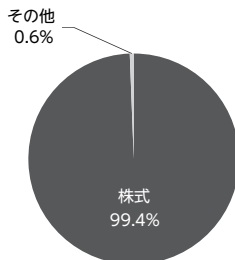
## 【組入上位10銘柄】

(2020年11月末現在)

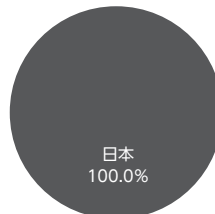
	銘柄名	比率
		%
1	トヨタ自動車	3.2
2	ソニー	2.5
3	ソフトバンクグループ	2.3
4	キーエンス	2.0
5	任天堂	1.5
6	日本電信電話	1.3
7	日本電産	1.3
8	第一三共	1.3
9	武田薬品	1.3
10	三菱UFJフィナンシャルG	1.2
	組入銘柄数	2,173 銘柄

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

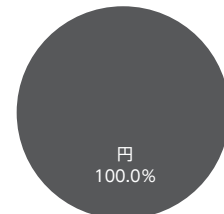
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、2020年11月末現在のものです。

(注2) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

(注3) 国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びBlackRock, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### 〈各指数の概要〉

- 日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

### 〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。